

静岡県幼児教育の質向上を目指して

わっ！ぴょん通信



発行・編集

静岡県幼児教育センター



幼保小の円滑な接続に向けて

市町の取組紹介

富士宮市より

「幼保小の架け橋期を考える会」
「魅力ある学校づくり推進事業」の紹介

富士宮市では、昨年度に「幼児期の育ちや学びを生かすために必要なスタートカリキュラム」をテーマに富士・富士宮地区教育研究会（小・中学校の教職員を対象）に、幼稚園、保育園、認定こども園も園も参加して、スタートカリキュラムへの理解を深めました。また、小・中学校の主幹教諭・教務主任を対象にした研修会を行い、これまで各校で作成済みであったスタートカリキュラムを見直し、教育課程編成につなげました。



▲幼・保・こども園小学校区ごとの
グループワーク

市内の幼稚園、保育園、認定こども園では、「幼保小の架け橋期を考える会」として、園での取組について情報交換の場を昨年度から開催してきました。今年度は、幼児教育サポートチーム訪問支援事業を利用し、講師から小学校でのスタートカリキュラムの実践例、連携の具体例を伺い、グループワークを行いました。幼児期の終わりまでに育つてほしい姿を意識した遊びを中心とした生活から学校生活へ滑らかに移行していくために、小学校との連携の必要性を理解し、グループワークを通して意見を出し合うことで、小学校への働き掛けにおける意欲が高まりました。

また、「魅力ある学校づくり推進事業」の研究指定校として、貴船小学校と上井出小学校が、幼児期から就学期への円滑な接続を目指した研究を進めています。幼・保・こども園と小学校が、互いの教育観や指導方法を知り、理解し合うことが、連携のスタートだといえます。遊びから学びへの移行をスムーズにし、環境や学びのギャップを減らすことで、子どもたちが安心して学びに向かえる環境づくりを目指して連携を進めています。



▲研究指定校での園小合同のグループワーク

幼児教育と小学校教育をつなぐ「架け橋期のカリキュラム」とは？

5歳児から小学校1年生にかけての2年間を、「架け橋期」といいます。架け橋期は、子どもが新しい環境へと一步踏み出す大切な時期です。

文部科学省は、幼児教育と小学校教育の学びの連続性を考慮し、幼児期に育まれた力（資質・能力）を、小学校での学びにつなげるため、園と小学校の連携・協働を進めています。

この考えをもとに、子どもの学びや生活をなめらかにつなぐために考えられているのが、「架け橋期のカリキュラム」です。

静岡県幼児教育センターでは、市町行政・園・小学校が連携・協働体制を構築して架け橋期のカリキュラムを作成できるように、「架け橋期のカリキュラム作成・実践・発展の手引き」（静岡県版）を作成しており、2月末に配信する予定です。

◎静岡県版架け橋期のカリキュラムを中心
に手引きの内容について、特別部会等にて
協議を重ねています。



詳しく知りたい方は、
こちらもあわせて
ご覧ください。



文部科学省
「幼保小の架け橋プログラムの
実施に向けての手引き（初版）」